



猫の「歯」は人とどう違うの？



肉食動物ならではの、細くて鋭い猫の「歯」。人の歯とどこがどう違うのでしょうか？その特徴をクローズアップしてみましょう。

猫の歯の基礎知識

猫の歯も生え変わります

子猫の口の中をじっくりのぞいたことがありますか？猫にも、人と同様、乳歯と永久歯があります。乳歯は、生後2〜3週間頃から生え始め、約1カ月で生え揃います。永久歯は生後4カ月頃から生え始め、通常、6カ月頃には生え変わりが完了します。抜けた乳歯のほとんどは飲み込まれてしまったため、飼い主さんは気づかないこともあるかもしれません。

ちなみに猫は、乳歯26本、永久歯30本。人は乳歯20本、永久歯28本（親知らずを含めて32本）ですから、本数自体はそれほど大きな差はありません。一方、犬は永久歯が42本と、口吻が長い分、歯の数も多くなっています。

肉を切り裂きやすい、尖った歯

猫は肉食動物ですので、その歯は、ほとんどが肉を切り裂きやすい先の尖った形をしています。それぞれの歯は、次のような役割を担っています。

切歯 正面に上下各6本ある前歯。獲物を捕らえたり、物をかじったり、体がかゆいときに毛づくろいをするのも、この歯です。

犬歯 切歯の両側に上下各2本ある、大きく尖った歯。獲物に噛みついて、肉を引きちぎったりします。猫にとっての大きな武器で、戦うときは、犬歯をむき出して相手を威嚇します。

臼歯 犬歯の後ろに続く歯で、前臼歯が上に6本、下に4本、後臼歯が上下各2本あります。人の臼歯は、文字通り臼状で、食べ物をすりつぶす役割をしますが、猫には食べ物を咀嚼する習慣がないため、臼歯も小さく先が尖っており、食べ物を噛み切ることに特化した構造です。

猫に虫歯が少なく、歯周病が多い理由

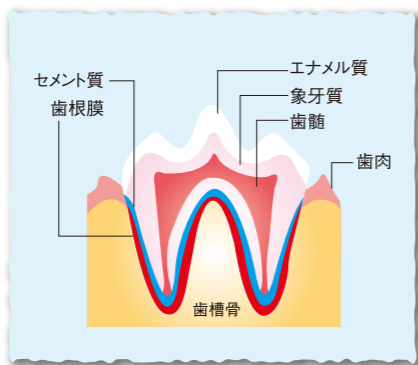
猫と人では、口内環境にいくつかの違いがあります。まず1つめは、先に述べた通り、歯の形状が違います。人の歯の多くが臼の形をしているのに対し、猫の歯の多くは薄く尖っています。

2つめは、人の唾液にはデンプンを糖に分解する酵素アミラーゼが含まれていますが、肉食の猫は本来、炭水化物を必要としないため、唾液にアミラーゼが含まれていません。

猫特有の「歯頸部吸収病巣」

歯頸部吸収病巣は、歯が根本から次第に溶けて、あごの骨に吸収されてしまう猫特有の病巣です。溶けるに従って痛みが激しくなりますが、予防法や進行を止める方法はありません。対症療法として、歯を抜歯を行います。

※「歯周病」と「歯頸部吸収病巣」について、詳しくはP.6「症状から見つける猫の病巣―ただれや口臭がひどい」をご覧ください。



歯が折れる「破折」

歯が折れたり欠けたりした状態を破折、歯がすり減った状態を咬耗（こうそう）といいます。硬いものを噛むのが好きな犬とは違い、猫ではそれほど多くありません。ただし、事故やケンカによって、犬歯を折るケースや、歯頸部吸収病巣にかかっている場合は、歯の付け根部分が溶けて、そこからポキッと折れてしまうことがあります。

損傷によって歯髄が露出すると、痛みを感じたり、細菌感染を起こしたりするので、早急な治療が必要です。損傷が軽ければ、歯の欠損部分を樹脂で充填するなどの修復ができますが、損傷がひどければ抜歯が必要になることもあります。

歯周病予防のために、愛猫に歯みがきの習慣を!

歯みがきは、子猫のときから慣れさせて習慣にしましょう。いきなり歯ブラシによるケアは難しいので、下記の手順で少しずつステップアップを。慣れるまでは、猫が嫌がったらすぐにやめる。終わったらごほうびを与えるなど、愛猫と飼い主さんの楽しいコミュニケーションタイムとして取り組んでください。

- 1 口の周りを触ることから始めて、時々歯を触るなどして徐々に口の中を触られることに慣れさせる。
- 2 指に巻いて使う歯みがきシート（ガーゼでもよい）で歯をこすってみる。
- 3 歯ブラシに猫の好物の肉汁などをつけて、においがかせたりなめさせてみる。嫌がらなければ口の中へ。
- 4 慣れてきたら歯磨きペーストをつけて。
- 5 45度の角度で歯の付け根に歯ブラシを当て、左右に細かく動かしてブラッシング（1本から始めて徐々に増やしていく）。
- 6 ブラッシングの時間を少しずつ延ばして、奥歯や歯の裏側もみがいてみる。



3つめは、人の口内は弱酸性ですが、猫はアルカリ性です。こうした違いが、実は虫歯や歯周病の発生率に影響しています。猫の場合、口内がアルカリ性で虫歯菌が繁殖しやすい環境。唾液に「アミラーゼ」を含まず、虫歯菌の餌となる糖が口内に留まりやすいこと。歯が尖っていて、人の臼歯のようにくぼみに虫歯菌がたまりにくいことなどが、人と比べて虫歯になりにくいのです。逆に口内がアルカリ性のため、歯垢が石灰化して歯石になりやすく、人より歯周病になりやすいといえます。

猫に見られる「歯のトラブル」は何か？

成猫の多くが抱える「歯周病」

歯周病は、歯垢や歯石が原因で歯の周辺組織に起こる炎症で、口臭、歯肉の腫れや出血などが見られます。成猫の8割がかかっているともいわれるほど、多い病気です。猫の場合、歯垢は3〜5日で歯石化するといわれ、予防のためにはできれば毎日、少なくとも2日に一度の歯みがきが望まれます。

侮れない猫の噛む力

猫は、犬歯を突き刺して獲物に止めを刺しますが、犬歯を深く食い込ませるには、噛む力が強くなくてはなりません。猫の噛む力は約100kg、人が約60kgですから、なかなかのもの。ちなみにライオンが300kg、最強のワニは2000kgです。

